



## A-STEPの支援タイプ（平成23年度）

		フィージビリティスタディ (FS)			本格研究開発						
支援タイプ		探索	シーズ顕在化	起業検証	起業挑戦	若手起業家	ハイリスク挑戦	シーズ育成	中小・ベンチャー開発	創業開発	委託開発
申請者の要件 (共同申請/連名申請)		研究者*1 コーディネータ等*2 企業の研究開発関係者の協力がある場合は研究者*1	研究者*1 企業	研究者*1 側面支援機関*3	研究者*1 起業家*2 側面支援機関*3	研究者*1 起業支援組織*4	研究者*1 企業	研究者*1 企業	企業 (研究者*1)	企業 (研究者*1)	企業 (研究者*1)
研究開発規模	基準額 (上限額) 間接経費込	基準額 170万円 (~300万円)	基準額 800万円 (~1000万円)	1億5000万円 (総額)	4500万円 (総額)	2000万円 (総額)	JST支出総額 2億円 (企業負担を上限)	3億円 (総額)	10億円 (総額)	20億円 (総額)	
	開発期間 (原則・最長)	単年度	1年	3年	3年	2年	4年	5年	5年	7年	
開発費の性格		グラント	グラント	グラント	グラント	グラント	マッチング ファンド	売上げに応じて 実施料を納付	成功：開発費返済 不成功：90%返済免除 売上げに応じて実施料を納付		

- ※1 研究者とは、日本国内の大学あるいは公的研究機関等（大学等）に常勤として所属する者を指します。ただし若手起業家タイプに関しては、博士の学位を取得している者、博士課程満期退学者あるいは博士課程後期在学中の学生を指します。
- ※2 コーディネータ等とは、大学等の公的研究機関の研究成果を発掘し、研究シーズや企業ニーズのマッチング、研究シーズの育成、研究成果の各種制度や企業への橋渡しを主たる業務としており、国・地方公共団体・非営利団体・公的機関・大学等（株式会社TLOを含む）に属している者を指します。
- ※3 起業家とは、起業の観点から研究開発の方向付け、指導、助言ができる個人であって、マネジメント業務に責任を持つ者（1人）を指します。
- ※4 側面支援機関とは、日本国内に法人格を有する機関であり、マーケティング支援等、起業に向けた側面支援を実施する機関を指します。
- ※5 起業支援組織とは、大学等に所属しているベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等であり、JST起業研究員をアントレプレナーとして育成するために必要な支援（研究施設・設備の提供、事業計画作成や市場調査への支援や助言等）を行う組織を指します。

公募期間 平成23年2月14日（月）～4月4日（月）正午 平成23年度は7月頃、2回目の公募が行われる予定です。

### フィージビリティスタディ<探索タイプ>

#### 研究開発フェーズ・主旨

大学等の研究成果のうち、実用化に向けた研究開発へのスムーズな移行を目指す研究成果を対象に、企業化への視点に立脚して技術移転の候補を探索する研究開発を支援する。

#### 研究開発資金

**基準額170万円（間接経費含む）** 特段の事情がある限り、理由を付して、総額300万円まで申請可。←審査の対象とします。

#### 研究開発期間

単年度

#### 応募の要件

- (1) 研究責任者（大学等の研究者）とコーディネータ等の共同申請
  - (2) 企業の研究開発関係者のコメントを付した研究責任者の申請
- e-Radでの申請は、(1)ではコーディネータ等が代表して行う。

本学では社会連携センター藤野が担当しますが、本学以外の機関でのコーディネータ等との共同でも申請することができます。

### フィージビリティスタディ<シーズ顕在化タイプ>

#### 研究開発フェーズ・主旨

大学等の基礎研究のうち産業界の視点（企業ニーズ）で見出されたシーズの候補を対象に、シーズとしての実現可能性を産学共同で検証する挑戦的な研究開発を支援

#### 研究開発資金

**基準額800万円（間接経費・一般管理費を含む）** 基準額・期間を超える申請（総額1,000万円を上限）は別途審査対象

#### 研究開発期間

原則、最長1年

#### 応募の要件

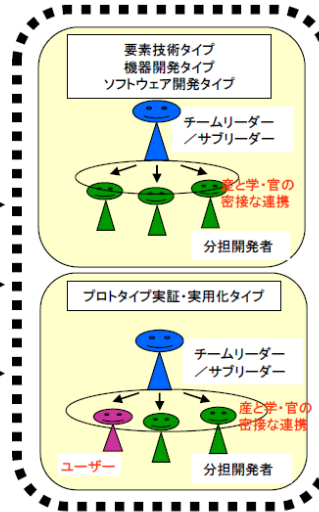
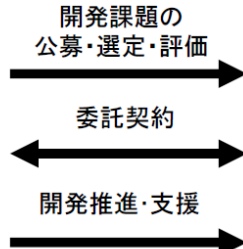
企業責任者（研究開発実施企業）と研究責任者（大学等の研究者）の共同申請。企業責任者が研究開発代表者となる

# ■先端計測分析技術・機器開発プログラム

JST 独立行政法人  
科学技術振興機構

- ・要素技術タイプ
- ・機器開発タイプ  
(領域特定型)(領域非特定型)
- ・ソフトウェア開発タイプ
- ・プロトタイプ実証・実用化タイプ
- ・知的創造プラットフォーム(仮称)〈H23新規〉

- ・評価委員会が課題を選考
- ・開発総括を中心とする開発推進体制を構築し、事業並びに開発課題全体をマネジメント



## 公募・選考プロセス

- 公募開始(2月下旬以降)
- 公募締切(4月上~中旬頃)
- 書類選考(7月上旬頃)
- 面接選考(7月下旬頃)
- 開発課題の決定(8月中旬頃)
- 10月開発開始予定

- ・「要素技術タイプ」は単独の機関による実施が可能。
- ・「機器開発タイプ」および「ソフトウェア開発タイプ」は産と学・官の機関が連携し、開発チームを編成。サブリーダーの設置が必須。
- ・「プロトタイプ実証・実用化タイプ」は産と学・官の機関が連携し、開発チームを編成。サブリーダーの設置が必須。チームリーダーは企業の方。世界トップレベルのユーザーも開発チームに参画。
- ・知的創造プラットフォーム(仮称)では、計測分析ニーズの抽出、開発、実用化、普及までを効率的・効果的に推進する場を構築(現在、文部科学省において制度設計中)

## 既存4タイプの比較

プログラム	要素技術タイプ	機器開発タイプ	ソフトウェア開発タイプ	プロトタイプ実証・実用化タイプ
内容	計測分析機器の性能を飛躍的に向上させることが期待される新規性のある独創的な要素技術の開発	最先端の研究や、ものづくり現場でのニーズに応える計測分析・機器の開発	先端的な計測分析のプロトタイプ機の実用化ならびに普及を促進するためのソフトウェアの開発およびソフトウェア開発を加速化、効率化する上でのプラットフォームの開発	ユーザー等による試用を通じて、プロトタイプ機の性能の実証、並びに高度化・最適化するための応用開発を行い、実用化可能な段階まで仕上げる (開発終了時に受注生産が可能)
チーム構成	チーム/単独いずれでも実施可	産と学・官が連携したチームを構成し、チームリーダー・サブリーダーを設置 プロトタイプ実証・実用化タイプのチームリーダーは企業の方		
実施場所	チームリーダー等の所属機関にて実施			
実施方法	JSTがチームリーダーの所属機関(中核機関)と委託契約を締結(参画機関は中核機関と再委託契約を締結)			
開発期間	3.5年以内	適切な期間	2.5年以内(プラットフォーム開発は3.5年以内)	2.5年以内
開発費	開発計画に基づく適切な開発費を申請/プロトタイプ実証・実用化タイプはマッチングファンド形式			
採択課題数	各タイプ数課題程度			
必要な物品人件費	委託費から執行(設備・備品等の所有権はJST又は実施機関) 開発の遂行に必要な研究員や学生、企業技術者等に支出可能			
知的財産権	契約に基づき原則として開発実施機関に帰属			

## 過去の採択実績

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	応募	採択	応募	採択	応募	採択	応募	採択
要素技術タイプ	86	9	101	19	135	23	150	15
機器開発タイプ	44	6	47	12	90	13	58	5
ソフトウェア開発タイプ	-	-	-	-	32	13	17	3
プロトタイプ実証・実用化タイプ	-	-	21	10	27	17	15	6

### 本学でのJST担当者をお招きしての説明会

3月7日（月） 10:00～11:30

場所 第三会議室

資料準備および、JST担当者の専門分野の調整の都合上、出席を考えられている先生方は2月28日までに 社会連携センター藤野 ([c-fuiino@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:c-fuiino@cc.nara-wu.ac.jp))までご連絡ください。

昨年度もご来学いただき、出席された先生方には非常に好評でした。採択される申請ノウハウの伝授もちらほら・・・

## 2. 奈良経済同友会との交流・懇談会 (1/17)

奈良経済同友会は、昭和23年6月戦後の混乱期の中で、古い歴史を持つ土地柄の奈良県に日本経済の再建を目指して当時の若手経営者によって結成創立された経営者集団です。

奈良経済同友会の福本代表幹事のご挨拶をいただいたのスタートとなりました。同友会からはダイヤ製菓(株)守金眞滋会長より「貼付技術で奈良から世界へ」と題して、奈良の薬業界の現状、医療用医薬品への展開や産学連携の期待と人材の確保・育成を通して、奈良から世界への展開を語っていただきました。本学からは生活環境学部高村准教授から「奈良の食と健康」、生活環境学部久保准教授から「住環境と健康」の講演をお願いいたしました。



## 3. 今後の予定

3月 7日（月）	JST公募事業説明会（A-STEPを中心に）
3月16日（水）－21日（月）	小学館主催 大学は美味しいフェア（大阪難波 高島屋）
3月26日（土）－27日（日）	奈良生駒高速鉄道（株）開業5周年イベント



## 4. 各種公募情報

ここでは研究助成公募を載せています。  
各種表彰などについては下記URLをご参照ください。  
<http://koto3.nara-wu.ac.jp/kenkyu/josei/koubo.html>  
また本学に募集のあった共同研究の公募については  
<http://koto3.nara-wu.ac.jp/kenkyu/josei/kyoudou.html>  
をご参照ください。

公募情報についてはリアルタイムに  
下記WEBにて随時公開中です。  
<http://koto3.nara-wu.ac.jp/kenkyu/kakenjosei.html>

### 内閣府食品安全委員会

- 【学内締切】平成23年2月22日  
応募される方は学内締切までに研究協力係まで研究提案書の写しを提出願います
- 【助成対象】Ⅰ:化学物質関連分野 Ⅱ:生物学関連分野 Ⅲ:新しい評価手法の開発に関する分野  
Ⅳ:自ら評価や新たなハザードへの対応、緊急時対応等に必要分野
- 【助成金額】上限2000万円/件、原則3年以内の研究期間
- 【問い合わせ】[http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/gijyutukenkyu23\\_ouboyouryou.html](http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/gijyutukenkyu23_ouboyouryou.html)

### (公財)日本生命財団

- 【公募時期】平成23年4月11日(消印)
- 【助成対象】人間活動と環境保全との調和に関する研究  
A:学際的総合研究 B:個別研究 C:若手研究
- 【助成金額】A:1~2千万円/件 B:200万円程度 C:上限100万円
- 【応募対象】応募資格:C:37歳未満(S49/4/2以降生まれ) 学生、院生は応募不可 一般管理費助成対象外
- 【問い合わせ】[http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/O2\\_gaiyo.html](http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/O2_gaiyo.html)

### (財)国土地理協会

- 【公募時期】平成23年4月1日~4月22日
- 【助成対象】地理学および関連する分野
- 【助成金額】上限100万円/件 研究期間は1年間
- 【応募対象】大学院博士後期課程修了、もしくは同等以上の能力と研究経験を有していること  
大学院生応募可(指導教員が代表者となる)
- 【問い合わせ】<http://www.kokudo.or.jp/grant/index.html>

### 笹川スポーツ財団

- 【学内締切】平成23年3月15日
- 【助成対象】研究活動(人文・社会科学領域)に対する助成 A.スポーツ政策総合研究 B.特定テーマ研究
- 【助成金額】上限100万円/件
- 【応募対象】(2011/4/1現在)所属機関又は大学院等で研究活動に従事する者(常勤・非常勤を問わず)  
間接経費は助成対象外
- 【問い合わせ】<http://www.ssf.or.jp/promotion/index.html>

### (財)ダム水源地環境整備センター

- 【公募時期】平成23年4月5日(消印)
- 【助成対象】既設のダム貯水池に係わる生態環境(上下流・周辺を含む)に関する研究。  
研究分野としては、生態学、工学、及びそれらの学際的な分野
- 【助成金額】1件につき 単年度:上限100万円 2カ年度:総額上限150万円
- 【問い合わせ】<http://www.wec.or.jp/support/season/index.html>

### (公)山村富美記念女性自然科学者研究助成基金

- 【学内締切】平成23年3月18日
- 【助成対象】自然科学(化学一般並びに化学に関連ある物理学及び生物学)の基礎的研究分野
- 【助成金額】200万円/年 2年以内。
- 【応募対象】博士の学位を取得している女性研究者(国籍を問わず)常勤職に就いていないこと(H23/4/1現在)  
研究指導者の推薦書要
- 【問い合わせ】[http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k\\_topm.html](http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k_topm.html)

### (公) 林女性自然科学者研究助成基金

【学内締切】平成23年3月18日

【助成対象】自然科学(化学一般並びに化学に関連ある物理学及び生物学)の基礎的研究分野  
A:研究助成 B:研究奨励「林フェロー」助成

【助成金額】A:上限300万円/件(平成23年度) B:100万円/年(2年以内)

【応募対象】女性研究者(国籍を問わず) A:大学の教授及び教授と同等の職にある者は除く  
B:博士課程に一年以上在学又は博士論文提出を目指している研究者  
常勤職に就いていないこと(H23/4/1現在) 研究指導者の推薦書要

【問い合わせ】[http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k\\_topm.html](http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k_topm.html)

### (財) 鴻池奨学財団

【学内締切】平成23年3月8日

【助成対象】土木・建築に関する研究(学内1件のみ)

【助成金額】上限100万円/件

【応募対象】准教授、助教等の若手研究者

【問い合わせ】<http://www.konoike.co.jp/zaidan/index.html>

### (独) 科学技術振興機構

【学内締切】平成23年3月10日

【学内注意】平成21年度まほろば・けいはんな科学ネットワークが採択中のため、  
同事業の支援地域を除いた範囲での申請可

【助成金額】上限1200万円/年 原則3カ年度H23/6-H26/3

【問い合わせ】<http://sciencecommunication.jst.go.jp/chiikinet/koubolist#>

## 5. 奈良女子大学メールマガジン

現在、総務・企画課のご協力のもと社会連携センター名で出しております「奈良女子大学メールマガジン」は、この2月10日(木)配信で287号を数えました。人気の「季節の写真便りコーナー」や「大学探検隊コーナー」でご紹介した写真は9200枚程度。現在の読者数は約768名です。

広報的な記事(研究会情報や、卒業生動向など)や写真がございましたら、  
[e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp) または [c-fujino@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:c-fujino@cc.nara-wu.ac.jp) 宛てにお知らせください。

また、[e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp) 宛てにメールタイトルを「登録」として空メールを送信していただけますと、登録させていただきます。研究室の学生さんなどにもご紹介してください。

## 6. お勧め備品

社会連携センターでは以下の備品を用意しています。ご連絡いただければ貸し出し、配布させていただきます。

